

みみょう幼稚園だより

令和元年12月号 *****<http://mimyo.org/youchien/>



みんなで楽しい 「みみょうフェスティバル」

あれほど楽しみにし、また準備を重ねたフェスティバルが終わったのもつい昨日のこのように思っていました。気がつけば「師走」を迎えています。皆さんにとって2019年はどんな年だったでしょうか？お子様の成長や笑顔がたくさんたくさん思い起こせる年であったと言って頂けますように、残りの一か月も、みんなが楽しい園

生活となるようしっかりと努力を重ねてまいります。

さて、今年も、幹事さんを中心に着々と準備を進めて頂いたバザーも大盛況で、購入品やあそびの成果を手し、帰路に着く人たちの表情も充実感にあふれていました。各保育室でのゲームコーナーに物品販売、テーブルやテントの片付けにいたる最後の最後まで、たくさんの力強いお手伝い、本当にありがとうございました。おかげ様でみんなが楽しいフェスティバルとなり、感謝感激の一日でした。年度当初より繰り返し準備を重ねていただくお母様方のお姿を目の当たりにしながら、私たち職員も、子どもたち一人ひとりが楽しく、より伸び伸びとあそぶことのできる日々にしていくこと、そして、そうしたあそびの過程と成果をしっかりと感じていただける作品展にしていくことを目指しました。

先月号でもお知らせしましたように、年長組、年中組の4室は、一学期より、学年・学級を超えた環境づくりをしていきました。子どもたちの主体性をより効果的に伸ばしていくためには、これまで以上に、自由に選べる、選び甲斐のある環境の提供が必要であると考えたからです。『みんなであそぶ日』いつの間にか、子どもたちは、そう呼び合い、複数の保育室を巡り、各部屋のコーナーで大好きなあそびを継続させていきました。「先生、これ、美術館に飾ってくる。」自慢の作品を手し、笑顔で隣の部屋に向かってとび出していく年長さん。先生たちは複数の部屋を歩き来して、子どもの思いを汲み取りながら、新しい素材や用具を用意したり、いっしょに遊んだりしています。年中のお部屋には、うどん屋さんが開店し、年長組に建てられた美術館も、どんどん姿を変えていきました。なんとテラスには「猫の道」の開通です。異年齢での活動は、優しさや関わりの広がりだけでなく、模倣や教え合いにより技能の高まりにもつながっています。そして、気付いたり感じたり考えたり工夫したりして遊び込んでいく子どもたちの笑顔や要求は、先生たちの意欲や保育力までも高めてくれています。幼稚園内外で、これらと思う素材等を見つけては、子どもたちに提供する姿に頼もしさを感じている日々です。年少組のお部屋では、葉っぱを水に浮かべる実験が始まり、出来上がったかわいい葉っぱのネックレスは、「みみょう美術館」の「ちびっ子カメラマンのフォトギャラリー」に飾り付けられました。現代美術館やひろしま美術館に出かけたこともよい経験になりました。『子どもの成長過程が可視化できておもしろかった』『美術館をどのように創りあげていったのか明確だった』等、嬉しい感想も頂きました。一人残らず全ての子どもたちの表現と育ちが結集した「みみょう美術館」になったと自負するところです。



小さな子どもたちは、常に偉大な表現者として成長し続けています。遊びながら、楽しみながら、身体を動かし、心を動かし、お友だちとつながりながら、認知能力も非認知能力も伸ばし続けています。そして、子どもの驚きや発見を、共に喜び感動できる感性を、私たち自身が常に磨き続けなくてはならないと教えてくれたのも子どもたちです。

近い将来、人間の役割の大部分をAIに譲る時がくると負のイメージが叫ばれる昨今ですが、人間のイマジネーションもインスピレーションもクリエイションも、決してAIに取って代わられる能力ではありません。子どもたちの手により今も進化し続けている玄関の「みんなのオブジェ」が、子どもたちが創る明るい未来を私たちに示してくれています。

園長 三上 玲子

